

[海外居住者選抜]

2020 年度学生募集要項（博士前期課程）

入学年度	試験区分コード
2020 年度春季(4月)	2201
2020 年度秋季(10月)	2202

1 募集人員

専攻	教育研究領域	募集人員		
		春季(4月) 入学	秋季(10月) 入学	計
コンピュータ・情報システム学専攻	CS:コンピュータサイエンス SY:コンピュータシステム CN:コンピュータネットワークシステム IT:応用情報工学 SE:ソフトウェアエンジニアリング	若干名	若干名	若干名
情報技術・プロジェクトマネジメント専攻	PM:プロジェクトマネジメント&IT スペシャリスト	若干名	若干名	若干名

2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び2020年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び2020年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2020年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2020年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2020年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2020年3月31日までに修了見込みの者
- (7) 学校教育法施行規則第155条第1項第6号の規定により文部科学大臣の指定した者
- (8) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において、本学大学院の教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (9) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2020年3月31日において22歳に達する者

(10) 2020年3月31日において、次のア～エのいずれかを満たす者であって、本学大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認められた者

ア 大学に3年以上在学した者

イ 外国において学校教育における15年以上の課程を修了した者

ウ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者

エ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

注1) 2020年度秋季(10月)入学出願者(2202)は、上記出願資格の「2020年3月31日」を「2020年9月30日」と読み替える。

注2) 企業等に在職のまま、出願・入学することができる。

注3) 全ての出願者は、出願の前に、入学後の研究計画等について、指導を受けようとする教員に了承を得ること。

注4) (8)、(9)、(10)により出願を希望する場合には、「本学大学院が認められた者」に該当するかどうか事前に審査する必要があるため、「9出願資格の事前審査を要する場合」をよく読んで提出期限までに事前審査書類を提出すること。

### 3 出願手続

#### (1) 出願方法

出願書類を封筒に入れ、封筒表に『大学院入学願書在中』と朱記し、郵送すること。

なお、やむを得ない事由により期間内に書類を送付できない場合には、E-mail又はFAXによる送付も認めるが、その後速やかにその原本を上記の方法により提出すること。

#### (2) 出願書類送付先（問合せ先）

〒965-8580 会津大学 学生課学生募集係

TEL : (0242) 37-2723 / FAX : (0242) 37-2526

E-mail : admission@u-aizu.ac.jp

#### (3) 出願締切日

春季入学者試験と秋季入学者試験に同時に出願することはできない。

試験区分 コード	試験区分	出願期間
2201	2020年度春季入学試験	2019年9月20日(金)から10月18日(金) (午後5時必着)
2202	2020年度秋季入学試験	2020年4月10日(金)から5月8日(金) (午後5時必着)

## (4) 出願書類

日本語または英語で明瞭に記入すること。ただし、5は英語で記入すること。

出願書類		提出者	摘要
1	入学願書	全員	本学所定の様式(M1-Overseas)に所要事項を記入すること。
2	住所票	全員	本学所定の様式(M2-Overseas)に所要事項を記入すること。
	写真票	全員	本学所定の様式(M2-Overseas)に、所要事項を記入の上、裏面に氏名を書いた写真(正面上半身無帽、背景なし、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に単身で撮影したもの。)をそれぞれ所定の箇所に貼って提出すること。
	受験票	全員	
3	卒業(見込)証明書又は在学証明書	全員	<u>出身大学の長等が作成し、厳封したもの(英文で作成)。</u>
4	成績証明書	全員	<u>出身大学の長等が作成し、厳封したもの(英文で作成)。</u>
5	研究計画書	全員	本学所定の様式(M3)を使用し、入学後に希望する研究内容等について英語で記載のこと。
6	推薦書	全員	本学所定の用紙(M4)を使用し、出願者の履修能力、業績等を客観的に証明することのできる者(出身大学の指導教員等)が作成し、封印をしたもの(英文で作成)。
7	TOEFL、TOEIC等の成績証明書	全員	TOEFL、TOEIC、IELTS、GEPT、CET等の成績証明書。 なお、英語を母語とする者及び英語による大学学部の教育を受けた者は提出不要だが、後者の場合、受験者は、学部教育での使用言語について学位を授与した大学が証明する文書を提出すること。
8	入学検定料	全員	2020年度春季入学試験 } 2020年度秋季入学試験 } 各30,000円 日本円で以下の口座に入金し、送金を証明する書類を添付すること。 海外から送金する場合、 <u>出願者本人を振込人名義として</u> 、指定口座への入金額が30,000円になるように送金すること。 なお、送金額から送金手数料が差し引かれることにより入学検定料が不足した場合は、出願を受理できないことから、送金手数料を全て出願者が負担する旨を必ず金融機関に伝えて送金手続きを行うこと。 また、送金手続きを行う銀行が本学の指定する口座に直接振り込めない場合、仲介する金融機関の手数料も必要となるため、注意すること。  銀行名：みずほ銀行 会津支店 口座番号：(普) 1178709 口座名義：コウリツダイガクハウジン アイヅダイガク 公立大学法人 会津大学

9	教育課程表	出願資格 (8)(10) の該当者	在籍する学科等の開講科目の講義内容が詳細に記載されたもの (英文で作成)。
10	経費支弁書	全員	経費支弁者が本学所定の用紙(M6)に記入すること。  注1: 合格した場合は当該経費支弁者の資産(収入)を証明できる書類を期日までに提出すること。 ・2020年度春季入学試験 2019年11月29日(金) ・2020年度秋季入学試験 2020年6月26日(金) 様式任意。原本をEMSにて送付すること。例として、以下のものがあげられる。なお、金額に関しては定めていない。 ・金融機関が発行した経費支弁者の氏名、残高、日付が記載された預金残高証明書(英文)。または、雇用先が発行した経費支弁者の雇用証明および年収証明(英文)。 注2: 出願時に奨学金を申請中の場合も上記の書類の提出が必要である。出願時に奨学金の支給が決定している場合は、その旨を記載した文書を提出すること。
11	その他	該当者	1. 企業等において研究などに従事した履歴がある場合は、職務及び主な研究業績について所定の用紙(M5)に記入すること。 2. GREを受験している場合は、そのスコア又は取得級の公式証明書(写し可)。

#### 4 注意事項

- (1) 不備のある出願書類、出願締切日時を過ぎて到着した出願書類は受付けない。
- (2) 出願書類受理後は、いかなる理由があっても当該書類及び入学検定料は返還しない。
- (3) 出願後の出願書類の記載の変更は認めない。
- (4) 出願書類に虚偽の記載があった場合には、入学許可後であっても入学を取り消すことがある。
- (5) **出願資格の(1)から(6)において、その「見込み」で出願したものが、その要件を充足しないこととなった場合は入学許可を取り消す(入学時に卒業証明書等関係書類を提出)。**
- (6) 上記(4)、(5)に該当する場合にも、関係書類及び入学料等の納付金は返還しない。
- (7) 海外居住者とは、出願期間開始から入学手続完了時まで海外に在住している者である。

#### 5 試験

選抜は書類審査によって行われる。海外居住者選抜試験では、口述試験は行わない。ただし、電話やE-mail、Skype、その他により詳細な質問を実施することがある。

#### 6 合格発表

##### (1) 合格者発表方法

本学研究棟前掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者本人あてに文書で通知する。電話、電子メールその他による可否の問い合わせには一切応じない。

なお、参考として本学 Web ページに合格者の受験番号を掲載する。

URL: <http://www.u-aizu.ac.jp/admissions/graduate/result>

(2) 合格者発表日時

試験区分 コード	試験区分	発表日時
<b>2201</b>	2020 年度春季入学試験	2019 年 11 月 15 日(金) 午前 11 時頃
<b>2202</b>	2020 年度秋季入学試験	2020 年 6 月 12 日(金) 午前 11 時頃

## 7 入学手続

(1) 入学手続方法

- ア 入学手続に必要な書類等については、合格発表後に郵送する。
- イ 提出書類に記載の上、郵送すること。送付先は「3 出願手続」の(2)出願書類送付先に同じ。
- ウ 必要な書類がすべてそろっていない場合には受付できないので、書類提出の際には十分確認すること。
- エ 一度受付をした入学手続書類は、いかなる理由があっても返還しない。
- オ 一度納付された入学料は、原則として返還しない。
- カ 所定の期日までに入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱う。

(2) 入学手続期間

試験区分 コード	試験区分	手続期間
<b>2201</b>	2020 年度春季入学試験	2019 年 12 月 20 日(金)まで
<b>2202</b>	2020 年度秋季入学試験	2020 年 7 月 10 日(金)まで

(3) 初年度納付金 (2019 年度)

区 分	金 額	納付時期
入 学 料	282,000 円	入学手続時
授 業 料	520,800 円	4 月末日及び 10 月末日を納期限として分納 (各 260,400 円) する。
学生教育研究災害障害保険料	(2 年分) 1,750 円	入学手続時
インバウンド付帯学総	(2 年分) 3,260 円	入学手続時

2020 年度の金額・納付時期については、変更となる場合がある。

## 8 その他

### (1) 日本への入国、在留資格等手続

本学大学院に入学するために必要な入国及び在留資格等手続については、入学時まで完了することが必要である。入国等の手続が完了せず、実際に入学ができなかった場合の責任は、すべて出願者本人に帰するものとし、提出書類及び納付金等の返還は行わない。

留学ビザの取得に入学許可証を必要とする場合があるが、本学の入学許可書は、入学料が納付され入学手続が完了した後に交付するので注意すること。留学ビザの取得については、あらかじめ大使館等に確認すること。

### (2) 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構の大学院奨学金等があり、詳細については入学後、説明会を行う。

### (3) TA制度

大学院生が学部授業（演習等）の補助業務を行うTA（ティーチングアシスタント）制度がある。TAに委嘱された場合には、従事した時間に応じて、時給1,000円程度の報償費が支給される。

### (4) 生活費

現在、必要な生活費は1か月当たり約10万円である（授業料除く）。

### (5) 下宿・アパート

学生は自分で下宿・アパートを探す必要がある。なお、下宿・アパートについての情報は、学生課学生支援係で提供する。

TEL : (+81)242-37-2515

E-mail : cl-health-welfare@u-aizu.ac.jp

## 9 出願資格の事前審査を要する場合

出願資格の(8)、(9)、(10)による出願を希望する者については、出願に先立ち事前審査を行う。なお、実際の出願の際には、入学願書原本とともに、事前審査提出書類以外の出願書類を提出すること。

事前審査書類を提出する場合は、任意の封筒を使用し、表に『事前審査書類』と朱書きし、「3出願手続」の(2)出願先へ郵送すること。

試験区分コード	試験区分	事前審査書類の提出期限	審査結果の通知
<b>2201</b>	2020年度春季入学試験	2019年9月6日(金) (午後5時必着)	2019年9月27日(金) まで
<b>2202</b>	2020年度秋季入学試験	2020年3月31日(火) (午後5時必着)	2020年4月24日(金) まで

提出書類等	摘 要	必要書類	
		出願資格 (8)(10)	出願資格 (9)
入学願書の写し	「3出願手続の(4)出願書類を参照のこと。」	○	○
成績証明書		○	○
研究計画書		○	○
推薦書		○	○
在学証明書		○	
教育課程表		○	
卒業(見込)証明書			
業績調書	企業等において研究などに従事した履歴がある場合には、本学所定の様式(M5)に所要事項を記入すること。		○

## ■大学院アドミッションポリシー

会津大学は日本で最初のコンピュータ理工学専門の大学です。コンピュータ理工学は、応用性が広く、将来性が高く、知的生産技術の中核となる最先端の学問です。

会津大学は、「地域から世界へ」と「to Advance Knowledge for Humanity」（人類の平和と繁栄のために発明・発見を行うこと）を建学の理念とし、開学以来全国でも類を見ないほど、研究業績の優れた多数の外国人教員をそろえ、国際社会をリードする研究開発・教育を行ってきました。

会津大学大学院は、国際的に貢献できる先駆的な学術教育研究の場として、1997年（平成9年）4月に設置されました。本学大学院は国内の産業界からの提言も取り入れた多様な授業を行う優れた教育研究環境を提供することにより、創造性のある人材育成を目指しています。グローバル環境における問題解決能力を養うため、授業は基本的に英語で行われています。

会津大学大学院研究科が求める学生像及び入学者選抜の基本方針は以下のとおりです。

大学院の求める学生像

### 【博士前期課程】

博士前期課程では国内外問わず、以下の資質を有する学生を求めます。

- 本学、他大学、高等専門学校専攻科等出身で、コンピュータ理工学とは異なる専門分野を修得した人も含め、コンピュータ理工学の基礎知識と技術を持つ人。
- コンピュータ理工学の先端知識と技術を習得し、あるいはさらにプロジェクト開発・マネジメントを学び、研究者やエンジニア、チームリーダーとして企業で活躍したい人。

### 【博士後期課程】

博士後期課程では国内外問わず、以下の資質を有する学生を求めます。

- 先端的コンピュータ理工学の研究を行うために十分な能力と意欲がある人。特に、学界において科学者・教育者として、または産業界において、研究者、あるいは新しいプロジェクトの立案・推進役として活躍できると期待される人。
- 旺盛な好奇心、新しいことに挑戦する精神を兼ね備え、人類のための新しい知識と社会に役立つ新しいシステムの研究と開発への強い意欲がある人。

入学者選抜の基本方針

会津大学大学院では、先端的コンピュータ理工学を学ぶために必須となるコンピュータ関連基礎知識や技術、英語能力、意欲などを確認するため、研究計画を含む出願書類の審査を行うとともに、英語による口頭試験を課すこととしています。なお、試験区分によっては、出願書類の審査のみを行う場合があります。



## ■コンピュータ・情報システム学専攻

本専攻は、コンピュータ理工学部に基礎を置き、コンピュータシステムを用いて現実の問題を解決することで、その処理対象である“情報”の構造と機能について研究することを目的としています。

本専攻のカリキュラムは、問題解決型研究を基本方針としており、修士論文の作成は、専攻に応じた必修科目である研究科目として行われます。修了に必要な総単位数の2割がこの研究科目に割り当てられています。本専攻のカリキュラムは、個人を主体として2年間かけて研究が進められるようデザインされています。

本専攻では次の5つのフィールドを設定しています。

○CS Field CS 教育研究領域 (Computer Science コンピュータサイエンス)

○SY Field SY 教育研究領域 (Computer System コンピュータシステム)

○CN Field CN 教育研究領域 (Computer Network Systems コンピュータネットワークシステム)

○IT Field IT 教育研究領域 (Applied Information Technologies 応用情報工学)

○SE Field SE 教育研究領域 (Software Engineering ソフトウェアエンジニアリング)

学部カリキュラムのフィールドに合わせて設計されているため、学部から一貫してコースプランを立てることが可能となり、より体系的に専門性を身につけていくことができます。

○CS Field CS 教育研究領域

**キーワード**：アルゴリズム、コンピューショナルモデリング、理論的コンピュータサイエンス

新たな理論の発展と実用システムへの展開を視野に入れて、先端的コンピュータシステム、知的システムを活用するための基礎技術、および多様に見える現象の本質を抽出して得られたコンピュータ理工学の核となる基礎理論を中心とした教育研究を行います。

○SY Field SY 教育研究領域

**キーワード**：組み込みシステム、VLSI テクノロジー、コンピュータデバイス、コンピュータ構成、並列処理

組み込みシステム、VLSI テクノロジー、コンピュータデバイスなど広範なコンピュータ技術を対象とした研究教育を行います。

組み込みシステムの研究については、アプリケーションソフト、OS、アーキテクチャ、電子工学についての広く深い知識の習得を目標としています。また、VLSI テクノロジー分野では、デジタル設計に加えて、物理設計やアナログ電子回路についての研究を行います。コンピュータデバイス技術の研究には、マイクロ・ナノデバイスの理論と応用も含まれます。

並列処理は、現在も将来も、コンピュータにとって重要な原動力であり、ハードウェアアーキテクチャからアプリケーションソフトウェアまで広範囲におよぶ最先端かつ革新的なコンピュータ技術の研究を主眼としています。

○CN Field CN 教育研究領域

**キーワード**：コンピュータネットワークシステム

現代の情報通信サービスには、コンピュータネットワーク技術が不可欠です。本領域ではコンピュータネットワークシステムを構築する上で基盤となるデジタル通信、マルチメディア・ユビキタスネットワーク、インターネット関連技術、および分散アルゴリズム等、コンピュータネットワークシステム開発に関する幅広い分野の教育研究を行います。

### ○IT Field IT 教育研究領域

**キーワード**：バーチャルリアリティ、マルチメディア検索、インターネットコンピューティング、  
ヒューマンインターフェース、ロボット工学、バイオメディカル情報技術

バーチャルリアリティ・マルチメディア・バイオメディカル情報技術は、コンピュータ理工学分野において、重要であり絶えず進歩し続けている領域です。具体的には、コンピュータグラフィックス・アニメーション、インターネット・マルチメディアコンピューティングのためのモバイルシステム、バイオメディカルマルチメディアシステム、知的マルチメディアシステム、複合・拡張リアリティ、コンピュータミュージック、ネットワークメディアアプリケーション、コンピュータゲームなどが研究対象となります。

またウェブテクノロジーやヒューマンインターフェース、ロボット工学などの急速な進歩に対応して、マルチメディアオブジェクトを検索するためのウェブテクノロジー、ヒューマン・マシーン・インターフェーステクノロジー、ユビキタス環境におけるロボットテクノロジー、極限環境探査とリモートセンシングの研究・実験を通じた知識並びに技術の修得を目標としています。

### ○SE Field SE 教育研究領域

**キーワード**：ソフトウェアエンジニアリング、並列・分散・インターネットコンピューティング、  
プログラミング

ソフトウェア工学は、コンピュータサイエンスと工学原理を適用し、ソフトウェアの開発・運用・保守を、体系的に規律を保ちながら実践するための学問です。最新のソフトウェア開発技術やツールの実践的活用法を身につけるとともに、様々なアプリケーション開発に参加し、要件を正確に定義・評価する方法から、問題を解決するための必要なリソース管理や開発工程の管理まで、得られた知識を応用することができるようになります。

## ■情報技術・プロジェクトマネジメント専攻

本専攻は、IT 産業に関わる実用的な問題を実際に解決することを通じた教育を行います。様々な実用的なソフトウェアの開発機会と、それをチームで取り組む環境を整えることで、他者との協働、個人としての取り組みの両方で自主性を発揮できるようなリーダーシップを醸成すると同時に、国際的教育を受けた最先端の情報技術専門家の育成を目指しています。

本専攻での教育研究は「ソフトウェア開発アリーナ」と呼ぶスーパーコースを核としており、修了に必要な総単位数の4割がソフトウェア開発アリーナに割り当てられています。このスーパーコースでは、学生がチームを組んで実用的なソフトウェアシステムを構築すること、4篇のテクニカルレポートを作成すること、そして論文1篇が国際会議論文集へ掲載されることが求められます。チーム協働による集中的研究がこのプログラムの特徴です。

### ○PM Field PM 教育研究領域 (Project Management and IT Specialist プロジェクトマネジメントと IT スペシャリスト)

**キーワード**：プロジェクトマネジメント、知的財産管理、ビジネスとコンピュータ産業、  
クラウドコンピューティング

国際的教育を受けた最先端の情報技術専門家の育成は、現代社会に課せられた重要な任務です。本教育研究領域では、信頼性の高い安全なソフトウェアを開発するための基礎知識や応用技術の習得を目指します。

また、本フィールドでは、システム開発において基礎知識から応用技術まで幅広い知識を身につけた IT リーダーを育成することを目指しているため、プロジェクトの内容に応じて必要となる知識を他フィールドから履修することが求められます。

具体的な目標は以下の通りです。

- ・システム開発において主導的役割を担う技術者の育成
- ・国際的環境での英語を日常語とした研究開発の体験
- ・最新の知識と技術の習得
- ・国際的に活躍するために必要な資質の向上